

寺報

真宗大谷派松寺永福寺

平成20年10月1日発行

第32号

発行所

富山市梅沢町3丁目1-6
真宗大谷派 松寺永福寺
電話 (076) 423-1848
発行人 長 真 寿

松寺だより

弔辞

「松寺の奥さん」

あなたとは ほんとうに長いご縁をいただきまし
たね

思い出されます かずかずの懐かしい道のりが

先々代のご住職さんの時から 今日まで

松寺女房講の会員として

毎月の例会でのあなたとの語らい

また お正月やら夏の

永代経 お盆

そして報恩講

嚴重にしきたりを守っ

て 率先して仏具のお

磨きをなさって

お磨きをしながら

昔のよもやま話に花を咲かせたり

お花をこよなく愛し たくさんの鉢を育て

また歌や踊りが好きで

よく知っておられましたね

戦争で丸裸の中から 五人のお子たちを立派に育てて

毎日の月参りや寺が忙しいとご門徒の葬式

法事にもお参りして

前の住職さんたちのお手伝いをされて

しかし けっして目立たず どこまでも控えめで

それでいて ちゃんと ものの道理を わきまえ
られて

暖かくて 気高くて ほんとうに優しくって

大正・昭和・平成の動乱の流れに寄り添って

「松寺の奥さん」としての生涯を歩まれ

いま やるべきことを成し終えた 大満足の笑みが

シミひとつない美しいお顔に あふれています

そのお顔を拝んでみると お別れの悲しみよりも

お浄土からの光がさんさんと 降り注いでいるよう
で

かぎりない安らぎすら

を覚えます

謹告

平成十九年十二月二十五日 示寂

法名 永樹院 釈尼慈香 九十六歳

松寺永福寺第十九世坊守

俗名 長 富雄

ほんとうに長い間のご
縁に

思いは尽きませんが

その安らぎを支えに

お念仏を ともどもに申して

与えられた これからの人生を歩んでゆきたい

そんな 悲しみのなかから 湧きおこる

不思議な力をいただきます

ありがとうございます

わたしもいずれは参ります

平成十九年十二月三十日

松寺同朋の会を代表して

佐藤みつえ



本堂に響くハーマニー

大改修で一新

真宗大谷派富山別院

真宗の教えを表す歌をコーラスする合唱団＝富山市総曲輪の富山別院で



親鸞、蓮如法要始まる

浄土真宗の開祖親鸞の七百五十回遠忌待ち受け中興の祖蓮如の五百回遠忌の両法要が二十三日、富山市総曲輪の真宗大谷派富山別院（東別院）で三日間の日程で始まった。

初日は約二百五十人の門徒が法要に合わせて改修した本堂に参列し、本尊の阿弥陀佛像に念仏を唱えた。富山教区混声合唱団はコーラスで真宗の教えを歌った。裏庭から正門前に移した明治時代の別院創立時の記念碑の除幕式もあった。法要委員会は「宗教・民族紛争やテロが頻発し、国内でも殺伐とした事件が起きている。法要を通じ、二人の説いた『互いの違いを認め合い、いのちを尊重する心』を見直したい」としている。

二十四日からは京都・東本願寺の大谷暢顕門首が来場し、自ら法要を執り行う。二十五日は法要のほか、門徒の子どもらによる稚児行列がある。

（林啓太）

掲 示 板

仏法を学ぶと
立派な優れた人間に
なるのではなく
逆に私の愚かさや
罪深さが明らかになってくる
そんな私のための
南無阿弥陀仏

平等とは
没個性ではない
みんなといっしょ
ということではない
平等とはそれぞれの
個の違いを
受け入れること
認めあうこと

撫尾巨津子著

『お寺は何のために

あるのですか』より



ご 案 内

十一月四・五日(火・水) 両日共 午前十時〜(午後なし)

報 恩 講 謹 修

並びに前々坊守一周忌法要 五日 午前十一時半〜

法 話 東老田常入寺住職 青井 和成 氏

今年も聖人のご恩を偲び、ご恩の中に育っている私を明らかにさせて頂きましょう。どなた様もお誘い合わせの上、ご参詣下さいますよう、お待ち申し上げます。

平成二十年 十月

松寺墓地に合祀塚が完成

この八月に長年の懸案であった「無縁塚」を改修し、「有縁之塚」と名前も改め、お盆まえの九日に内輪で除幕式を執り行いました。(写真)

時代の流れでしょうか、お墓を伝承する「イエ」の基盤が崩れ、また遺骨を祀る形式も多様化して、従来のお墓のほかに、お骨のアパートともいふべき納骨堂とか、散骨を希望される方など、当たり前前の時代になりました。

京都の常寂光寺や東京都府中市にはシングル女性のための共同墓があるそうです。

もちろん理由は異なりますが、親鸞聖人は「わたしが死ねば鴨川に流して魚の餌にしてほしい」と遺言されたと伝えられています。したがって、お墓にこだわらない宗風である浄土真宗の本来の姿に一步近づいてきたといふべきなのでしょうか。



平成13年お盆特別法話抄出

城端 大福寺住職 太田浩史師

なぜ松寺というのか(7)

◆東西分派

当時、織田信長のお尋ね者になっていた教如上人ですが、石山寺では父の顕如上人と対立しまして、なにがなんでも織田信長に降伏してはだめだ、必ず騙し討ちにあうから徹底的に戦わねばならないと、いっていた教如上人が、飛騨から甲斐にはいつて武田勝由と合流しようとしたのですが果たせず、白川に逃げて隠れておられたのですが、それがかえってよかったですね。翌年武田勝由は滅ぼされていますから…。

その教如上人を、どこまでも支えたのが越中では空勝と了誓なのです。その二人が教如上人が白川に隠れておられるという情報を耳にして、五箇山に上人を迎えにいらしてあります。

さいわい本能寺の変によって危機を脱せられるのですが、豊臣秀吉はこれは危険な人物だから跡取りにするわけにはいかないということで、弟・順如上人を立てます。そこへ徳川家康が天下をとりまして、教如上人の本願寺を建ててあげましょうということになって、京都の烏丸の地に、今の東本願寺が建ちます。これが大谷派ができたということなんです。

ところが誰もついてこない。最初は、そのときに真っ先に、われわれは大谷派になりますといったのが、空勝と了誓なのです。

◆松寺と触頭

北国一家宗の代表寺院である松寺の扱いについて、前田藩が教如上人と相談しまして、富山県の呉東地区と呉西地区とに地域を分けて、触頭という制度を作り上げたのです。触頭というのは多くの寺院を監督する役職です。監督だけでなく裁判もやる、願事といってこの人を住職にしたい、この人を得度させたいという願い事も全部触頭を通さないと許されない、いまの教務所みたいなものです。

この触頭に呉西地区に二百五十ヶ寺もあったのでしょうか、城端の善徳寺がなります。呉東地区に三百ヶ寺近くはこれは触頭に松寺永福寺と定めたわけなのです。

それで松寺は最初、高岡にまず移ります。ここに開正寺という掛け所が残っております。で、高岡から富山藩が成立して、この富山にもってこられるわけです。そして江戸時代は三百ヶ寺近い寺院を教育する役割をもって、大変な活躍をしておられます。

(文責は編集者にあります)

あ と が き

◆一面でご紹介いたしました、前々坊守が九十六歳を天寿として、昨年暮に亡くなりました。年末でもあり、地元紙で死亡広告を掲載するに止め、県外にはご案内申し上げます。お許し下さいませ。生前に賜りましたご高誼にたいしまして、遅ればせながら、厚く御礼申し上げます。また、お忙しい中からご弔問下さいました皆様には、重ねて御礼申し上げます。◆十年前にも肺炎で先生から「あと、二、三日かも知れません」といわれたのですが、奇跡的に立ち直り、大正・昭和・平成の激動期を生き抜いてきたシンの強さに感嘆させられました。とりわけ戦時中の苦勞は子供の眼からしても、頭が下がるものがありました。親不孝の我が身を恥じるばかりです。実家は滑川市の本願寺派・専称寺(玉木)様です。◆おかげさまで、総曲輪の東別院が立派に修復され、境内も整備されて装いが一新しました。五月には門首を招き、記念の法要が営まれて、久しぶりの盛儀でした。賜りましたご懇念にたいしまして、ありがたく御礼申し上げます。また記念行事として、四月に魚津市の新川文化大ホールで第一部が記念講演(講師は江川紹子氏)第二部が仏教讃歌の演奏会で、私が八十余名の合唱団の指揮をさせて頂きました。高校時代から合唱団活動をしてきた総決算になりました。家内もソプラノとして支えてくれました。(前住記)